

奥の細道むすびの地「大垣」 十六万市民投句

一般の部

令和六年五月度 入賞句一覧

投句数 五百二十六句

特選

度会 さち子 選

甲冑に闇の匂ひや青葉冷え

愛知県名古屋市 武藤 紀子

甲冑は戦において武将が敵から身を守る防具である。彦根城の、井伊家のいわゆる赤備えが有名。戦況・戦場をめぐつての闇とともに、甲冑で身を固めた武将たちの心の闇も渦巻いていたことであろう。それらへの想いを「匂ひ」の一語にあらわす。季語の「青葉冷え」は甲冑を前に立った作者の気持ちに沿う。

金盞花朱きは重き日のひかり

神奈川県横浜市 沼野 大統領

金盞花は茎も太く、花も花弁はびつしり厚く、見るからにたくましい。黄色や朱色もあるが、作者は朱色に注目。陽をたつぷりと吸いとつたような花に、作者は「重き日のひかり」を感じる。また「ひかり」をひらがなとしたところに、あまりに健康的な金盞花を見つめる作者の心をも感じるのは余分か。

空にこゑ山にこゑある春祭

長野県下伊那郡 長沼 まさし

平野での祭りは五月が多いことから、「祭り」は夏の季語になつてゐる。だが、山間部では四月の祭りが多い。木々の芽吹きや鳥の鳴き声、谷を渡る風に、明るい春が来たことを感じるからであらうか。そうなのだ。春祭りには、空にも山にも生きるものすべて、私たち人間も含めた喜びの声があふれるのだから。

秀逸

引越しの最後は子猫ふところに

埼玉県川口市 吉永 寿美子

奥揖斐や煙雨八十八夜寒

大垣市 田中 雅子

デパ地下へ降りて駅弁みどりの日

大垣市 小林 研

仔馬立つ四肢の震へのをさまりて

大垣市 村田 通夫

襟元のボタンをゆるめ若葉風

大垣市 富田 洋子

イヤホンを外す車窓の飛花落花

安八郡安八町 わたなべ みのり

思春期のきりなき眠り花曇り

静岡県藤枝市 山本 紫苑

輪郭が子規の横顔ラ・フランス

埼玉県越谷市 小田 毬藻

平らかな国にゐてこそ花の宴

愛知県豊田市 城山 悠水

物干しの妻のハミング春めきて

大垣市 田口 貞善

入選

縁側に米寿の二人桜餅

大垣市

中西 治美

山藤の咲く教会の赤い屋根

大垣市

岡田 あや子

少年のぶらんこ触るる茜雲

安八郡輪之内町

野村 照子

桐咲くや納屋に錆びたる鍬と鎌

大垣市

村田 通夫

木漏れ日に桜蕊降る芭蕉像

大垣市

浅野 翔泉

竹林の木洩れ日ゆれて著莪の花

不破郡垂井町

竹嶋 富美子

数独が解けて薫風日曜日

大垣市

村井 娑婆

春霖や御堂の読経山を打つ

岐阜市

後藤 美恵

鉄棒に集ふひかりや草青む

東京都足立区

山崎 董久

のどけしや修験者ひとり降るホーム

京都府京都市

石田 吉之助

駆け回る犬のリードの伸びる夏

愛知県犬山市

紅紫 あやめ

行く春や納屋に重ねる苗ポット

埼玉県東松山市

谷本 だつく

夏めくや青果売場の無国籍

神奈川県相模原市

中村 光枝

夜半の春爪にひんやり除光液

東京都武蔵野市

木嶋 純子

制服にゆとりの少し風光る

岐阜市

廣瀬 あや子

選者吟

光りつつ曲がる大河や南吹く

さち子



一般の部